(財)財務会計基準機構会員 JASDAQ

平成20年12月9日

各 位

上場会社名 シーシーエス株式会社
代表者 代表取締役社長 米田 賢治
(コード番号 6669)
問合せ先責任者 取締役 高山 啓
(TEL 075-415-8280)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年9月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年7月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,900	300	290	170	8,300.78
今回発表予想(B)	2,300	△100	△90	△55	△2,701.11
増減額(B-A)	△600	△400	△380	△225	―――
増減率(%)	△20.7	―	―	―	―――
(ご参考)前期第2四半期実績(平成20年7月期第2四半期)	2,723	414	401	261	12,812.74

平成21年7月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,300	900	880	540	26,367.19
今回発表予想(B)	5,000	100	110	65	3,192.22
増減額(B-A)	△1,300	△800	△770	△475	―――
増減率(%)	△20.6	△88.9	△87.5	△88.0	―――
(ご参考)前期実績(平成20年7月期)	5,602	779	765	501	24,503.52

平成21年7月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,600	250	250	140	6,835.94
今回発表予想(B)	2,000	△70	△80	△50	△2,455.55
増減額(B-A)	△600	△320	△330	△190	―――
増減率(%)	△23.1	―	―	―	―――
(ご参考)前期第2四半期実績(平成20年7月期第2四半期)	2,408	313	301	189	9,251.26

平成21年7月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,600	750	740	440	21,484.38
今回発表予想(B)	4,400	90	95	55	2,701.11
増減額(B-A)	△1,200	△660	△645	△385	―――
増減率(%)	△21.4	△88.0	△87.2	△87.5	―――
(ご参考)前期実績(平成20年7月期)	4,887	604	600	381	18,631.95

修正の理由

(第2四半期(連結・個別)累計期間業績予想の修正理由)

当社グループの第1四半期の業績は、サブプライムローンに端を発した金融不安、為替市場、株式市場の低迷が、当初に見通していた景気の後退懸念の予想をはるかに超えて、急激な勢いで国内および世界経済に波及しております。この影響により、主要顧客である電子・半導体業界・自動車関連業界の生産・品質関連設備の縮小傾向がより鮮明となり、当社の主要分野であります、マシンビジョン照明分

野（旧工業分野）は、国内外ともに9月まで概ね予想通りに推移していた受注が、10月以降は新規案件減少・設備投資計画の先送りにより受注状況が悪化してまいりました。

第２四半期につきましても、世界経済の景気後退懸念がさらに強まり、当社グループの主要分野であるマシンビジョン照明分野（旧工業分野）は、国内外において引き続き受注高は低調に推移しており、第１四半期に比べてさらに厳しい環境となると予想しております。

国内のマシンビジョン照明分野（旧工業分野）は、電子・半導体業界・自動車関連業界の生産・品質関連設備の投資の縮小傾向および検査装置輸出関連企業の業績悪化による新規案件の減少が主な要因となり、国内売上高は340百万円の減少の1,570百万円を見込んでおります。

海外のマシンビジョン照明分野（旧工業分野）は、電子・半導体業界・自動車関連業界の生産・品質関連設備の投資の縮小傾向、欧米においては特に半導体装置メーカーの大口顧客からの新規受注が大幅に減少しており、海外売上高は240百万円の減少の660百万円を見込んでおります。

よって、第２四半期連結累計期間の業績は、売上高は予想比20.7％減の2,300百万円（前回予想2,900百万円）となる見込みであります。売上高の減少による影響から営業損失は100百万円（前回予想営業利益300百万円）、経常損失は90百万円（前回予想経常利益290百万円）、四半期純損失は55百万円（前回予想四半期純利益170百万円）に修正をいたします。

（平成21年7月期（連結・個別）通期業績予想の修正理由）

通期の業績予想につきましては、景気の後退懸念による設備投資の減少傾向は、下期において、第2四半期以上にさらなる新規案件の減少および設備投資計画の先送りがあると予想されます。

国内のマシンビジョン分野（旧工業分野）は、電子・半導体業界・自動車関連業界の生産・品質関連設備の投資の縮小傾向や検査装置輸出関連企業の動向の不透明感は第2四半期に比べ、下期でもより一層悪化が予想されることから、国内売上高は、800百万円減少の3,200百万円を見込んでおります。

海外のマシンビジョン照明分野（旧工業分野）は、特に欧米の半導体装置メーカーの大口顧客の業績動向から受注動向の見通しは、第2四半期以上に厳しい環境が予想され、海外売上高は、490百万円減少の1,430百万円を見込んでおります。

このような状況のもと、下期においてハロゲン光源ボックスの置き換え戦略として、LED光源ボックスの世界戦略品「PFB－２OSW」、ラインセンサ市場にラインセンサカメラ用LED照明「HLNDシリーズ」や高輝度集光ライン照明「LNシリーズ」、三品業界（食品・薬品・化粧品業界）や電子部品などの幅広い市場にハイパワーライトシリーズ「HPD、HPRシリーズ」を積極的に展開するとともに、新規分野においても「自然光LED」を搭載した新製品を投入等により新規市場および顧客の開拓に努めてまいります。

費用につきましては、原材料・使用部材の共通化、事務作業の効率化等により削減可能な経費の圧縮に取り組み、コストダウン・経費削減に努めてまいります。

この結果、通期の業績予想は、売上高は予想比20.6％減の5,000百万円（前回予想6,300百万円）となる見込みであります。営業利益は、売上高の減少による影響により100百万円（前回予想900百万円）、経常利益は110百万円（前回予想880百万円）、当期純利益は65百万円（前回予想540百万円）に修正します。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以　上